

経営指導員4人のチームにより 電線製造会社の新事業を伴走型支援

課題

医療用機器に使われる 超極細ケーブルを開発したい

情報端末機器や通信機器、映像・制御機器、半導体検査装置、医療機器超音波診断装置などの製品をつくるうえで欠かせないのが、撚り線と呼ばれる極細・超極細ケーブルだ。肉眼では見えないほど微細な極細電線を精密に撚り、細線に張力をかけつつ微細に制御しながらつくられる。

由利本荘市に工場を構える羽田電線株式会社（本社・神奈川県）の高度な撚り線加工技術は業界内で高く評価され、国内電線ケーブル大手など多くの取引先を有し、製品の約60%がOA機器、約30%が自動車関連、約10%がその他の電化製品の関連部品に使われている。電線製造大手が同一規格での大量生産に注力するのに対し、同社は取引先の多様な注文に応えるべく、各種ケーブルの製造に取り組んできた。

この技術と実績が認められ、取引先から新たな部品製造の話が持ちかけられた。内視鏡に使用する極細の架間ケーブルの製造依頼である。しかし、このケーブルを製品化するには、新たに最新鋭の撚線機を導入することが不可欠だった。

支援

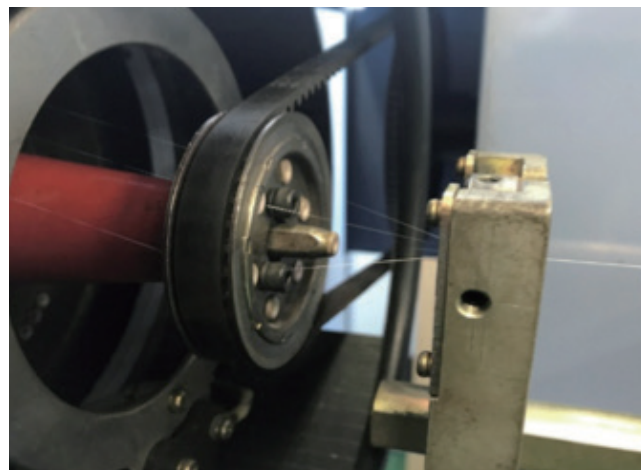
内視鏡や超音波診断機器に 採用される製品を開発

支援にあたった由利本荘市商工会は市場リサーチを実施。内視鏡業界の年平均成長率は7.0%、平成31年には190億ドルの市場になる見込みであること、内視鏡は体に負担が少ないことから、国内のみならず中国市場でもニーズが高まっていること、内視鏡関連の研究活動が幅広くサポートされていることなど、需要の拡大は確実であるとの市場予測を確認した。

併行して行ってきた同社の強みの見える化では、機械制御にかかる技術と精密加工にかかる技術の高さという強みを把握。他社との差別化を図り、高付加価値化を進める力のある同社なら、なんとしても挑むべき市場であると判断した。

そこで商工会は、迅速・的確に支援を展開するために経営指導員4名のチームを結成し、伴走型支援を実施。事業計画の策定、資金調達、経営力向上計画の認定取得の支援を行った。

こうして開発した新製品は、平成29年11月から平成30年4月までの6ヵ月間で売上総利益200万円超を達成。



電線製造の様子。微調整しながら撚りあげていく

その後、取引条件を見直した結果、既存商品と比べ、圧倒的に収益性の高い商品となった。

さらにこの後、取引先から新たに医療用超音波診断装置の極細線ケーブルの開発の依頼が寄せられ、商品化を行った。大手自動車製造会社や精密部品製造会社から共同開発の話も持ち込まれるなど、新たなステージに踏み出した同社。極細線ケーブルは、小型化・高精度化する電子機器や医療機器に欠かせない部品であり、航空機や宇宙産業分野での採用も期待されていることから、さらなる商品開発へ意欲を燃やしている。

支援の経過

期間	支援内容
H29年4月	秋田県がんばる中小企業応援事業申請支援
7月	経営力向上計画の申請支援
8月	経営革新計画の申請支援

会社概要

会社名：羽田電線株式会社
 住所：（工場）秋田県由利本荘市滝ノ沢岡崎78
 電話番号：0184-29-2907
 URL：http://www.haneda-ew.co.jp/
 代表者名：代表取締役 井島幸二
 創業年：昭和56年
 年間売上高：1億4949万円（平成29年）
 従業員数：8名
 商工会名・担当者名：由利本荘市商工会・佐藤大輔